

講義名	法学入門			授業形態	
担当教員	河野 総史	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生
				ナンバリング・コード	LAW120

主題と概要

社会とは、結局「個人対個人の関係」の集合体として成り立っている。（ただし、この場合の個人には法人（会社や団、地方自治体など）も含まれることを付け加えておく。）したがって、個々の「個人対個人の関係」のすべてが望ましいと考えられる（利害が調整された）状態になればこの社会はすばらしい社会になることである。そのような社会に少しでも近づいたためには、個々の「個人対個人の関係」をより良く調整するための道具が必要であることである。その目的を達成するために国家権力の発動をコントロールする社会的なシステムが法律なのである。そして社会的「人間関係調整システムとしての法律を学ぶ」ということは、社会生活において発生しうるすべての「個人対個人」の紛争を具体的な『条文』に従って解決すること（これを『法律の適用』という。）方法を身につけるということである。本授業の主題もそのような技法を習得することにある。すなわち抽象的理論的な説明にできるだけでなく、具体的な『条文』を示しつつこれを身近な具体的な事例に適用するという訓練を授業の一部に取り入れる。かかる実質的な要素をもった本授業を提供することで、法的に物事を思考する態度を身につけてもらいたい。今後のビジネススマンに必須の能力である。さらに討議を得た多くの身近な法律問題に就けることを通じて社会の一員であることの興味とその責任を感じてもらいたいことを主題としている。また本授業をはじめ本学においての法律関連科目（民法、商法その他）の主要なテーマは、様々な種類の「取引」（経営、流通をも含む広い意味。）に関わる場面に限定しての「個人対個人の関係」を「法律が」という望ましい関係にしようとしているのか、そのためどのように国家権力の発動を「当事者間の状況に応じた具体的な権利や義務を生み出すこと」によって「実態にコントロールしている」かを理解することである。したがって専門基礎科目と位置づけられる本授業の果たすべき役割としては、今後他の法律関連科目が前提として必要不可欠な取引に関わる法律上の基礎的知識の習得を内容とする。

到達目標

- (1)社会における「法的安定性」の意義を学び、社会生活ならびにビジネス活動において不可欠な法的基礎知識を修得することができるようになる。
- (2)他人との間で生じる様々なトラブルの予防および事後の適切な解決を図る能力を身につけることができるようになる。
- (3)社会人として要求されるコンプライアンス精神を身につけることができるようになる。

提出課題

毎回小テストを実施する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

小テストについては、次の講義回で講評を行う。

評価の基準

小テスト20点、期末レポート80点の、合計100点満点とし、60点以上を合格とする。小テストも期末試験も、レジュメの持ち込み有りとする。

履修にあたっての注意・助言他

講義では今後様々な法律科目を学ぶ前提となる基礎知識を学習するが、法律を暗記することが目的ではない。各法制度が何故存在するのかを理解し、常に考えながら講義に取り組んで欲しい。

教科書

教科書は使用しません。

参考図書

その他

講義レジュメを配布する。

授業計画

- 第1回 法って何？：社会のルールと法の役割
 予習内容：事前に当日のレジュメを配布しておくので、その内容を読んであらかじめ十分に学習しておくこと。
 復習内容：当日の授業内容をノートやレジュメを持っておきながら、理解が不十分と感じるときは予
 ストやネット検索でしっかりと補償しておくこと。また当日ワークシートを使って行った演習を核
 証すること。（120分）
- 第2回 法体系の概観：民法と刑法、民法と特別法
 予習内容：事前に当日のレジュメを配布しておくので、その内容を読んであらかじめ十分に学習しておくこと。
 復習内容：当日の授業内容をノートやレジュメを持っておきながら、理解が不十分と感じるときは予
 ストやネット検索でしっかりと補償しておくこと。また当日ワークシートを使って行った演習を核
 証すること。（120分）
- 第3回 法源とは何か：憲法・法律・判例・条例
 予習内容：事前に当日のレジュメを配布しておくので、その内容を読んであらかじめ十分に学習しておくこと。
 復習内容：当日の授業内容をノートやレジュメを持っておきながら、理解が不十分と感じるときは予
 ストやネット検索でしっかりと補償しておくこと。また当日ワークシートを使って行った演習を核
 証すること。（120分）
- 第4回 権利と義務：法が人の行動をどう調整するか
 予習内容：事前に当日のレジュメを配布しておくので、その内容を読んであらかじめ十分に学習しておくこと。
 復習内容：当日の授業内容をノートやレジュメを持っておきながら、理解が不十分と感じるときは予
 ストやネット検索でしっかりと補償しておくこと。また当日ワークシートを使って行った演習を核
 証すること。（120分）
- 第5回 法の解釈：条文をどう読むか
 予習内容：事前に当日のレジュメを配布しておくので、その内容を読んであらかじめ十分に学習しておくこと。
 復習内容：当日の授業内容をノートやレジュメを持っておきながら、理解が不十分と感じるときは予
 ストやネット検索でしっかりと補償しておくこと。また当日ワークシートを使って行った演習を核
 証すること。（120分）
- 第6回 法的思考：解決策をどう決めようか
 予習内容：事前に当日のレジュメを配布しておくので、その内容を読んであらかじめ十分に学習しておくこと。
 復習内容：当日の授業内容をノートやレジュメを持っておきながら、理解が不十分と感じるときは予
 ストやネット検索でしっかりと補償しておくこと。また当日ワークシートを使って行った演習を核
 証すること。（120分）
- 第7回 民事と刑事：争いを解決する
 予習内容：事前に当日のレジュメを配布しておくので、その内容を読んであらかじめ十分に学習しておくこと。
 復習内容：当日の授業内容をノートやレジュメを持っておきながら、理解が不十分と感じるときは予
 ストやネット検索でしっかりと補償しておくこと。また当日ワークシートを使って行った演習を核
 証すること。（120分）
- 第8回 契約の基礎：大学生生活の法律問題への導入
 予習内容：事前に当日のレジュメを配布しておくので、その内容を読んであらかじめ十分に学習しておくこと。
 復習内容：当日の授業内容をノートやレジュメを持っておきながら、理解が不十分と感じるときは予
 ストやネット検索でしっかりと補償しておくこと。また当日ワークシートを使って行った演習を核
 証すること。（120分）
- 第9回 大学生生活の基礎：大学生生活の基礎となる権利と義務
 予習内容：事前に当日のレジュメを配布しておくので、その内容を読んであらかじめ十分に学習しておくこと。
 復習内容：当日の授業内容をノートやレジュメを持っておきながら、理解が不十分と感じるときは予
 ストやネット検索でしっかりと補償しておくこと。また当日ワークシートを使って行った演習を核
 証すること。（120分）
- 第10回 大学生生活の発展：アルバイトを始めるのは法的にはどういうこと？

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

全学共通科目に属する本授業は、卒業認定・学位授与の方針である「法政科学大学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき」以下の資質・能力の修得を目的としています。

「本学が」のびのびと「こころを育む」の精神をもった人材
 ・本授業で学ぶ「憲法上の基本的権利を押し止める様々な権利により個人の尊厳を保障された存在としての自覚を持つことにより、何事にもこたえない精神を培うことができるようになる。
 知識を知恵に転換することができる。論理的思考力を持った人材
 ・本授業で学ぶ法的知識を、他人との円滑な人間関係の形成に役立てるための知恵として活かしていくことができるようになる。
 自主・自立の精神を持った人材
 ・本授業により、生活や社会活動上必要な様々な利益が法律を根拠とする諸権利により保障されている。仕組みを学ぶことにより、一層の社会人としての自覚と自信をもって行動することができるようになる。
 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
 ・仲間と協同して、物事を成し遂げるためには、互いに相手の生活や利益を尊重し合う必要があり、そのためには法律を根拠とする互いの権利や義務を理解し、尊重し合う必要がある。そのような基本的認識を本授業において学ぶことに意義がある。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

なし

実務経験の有無及び活用

なし

備考

その他授業運営方法等の急な変更がある場合には、キャンパスクロスの講義連絡を通じて案内を出しますので、日ごろから注意をしておいてください。